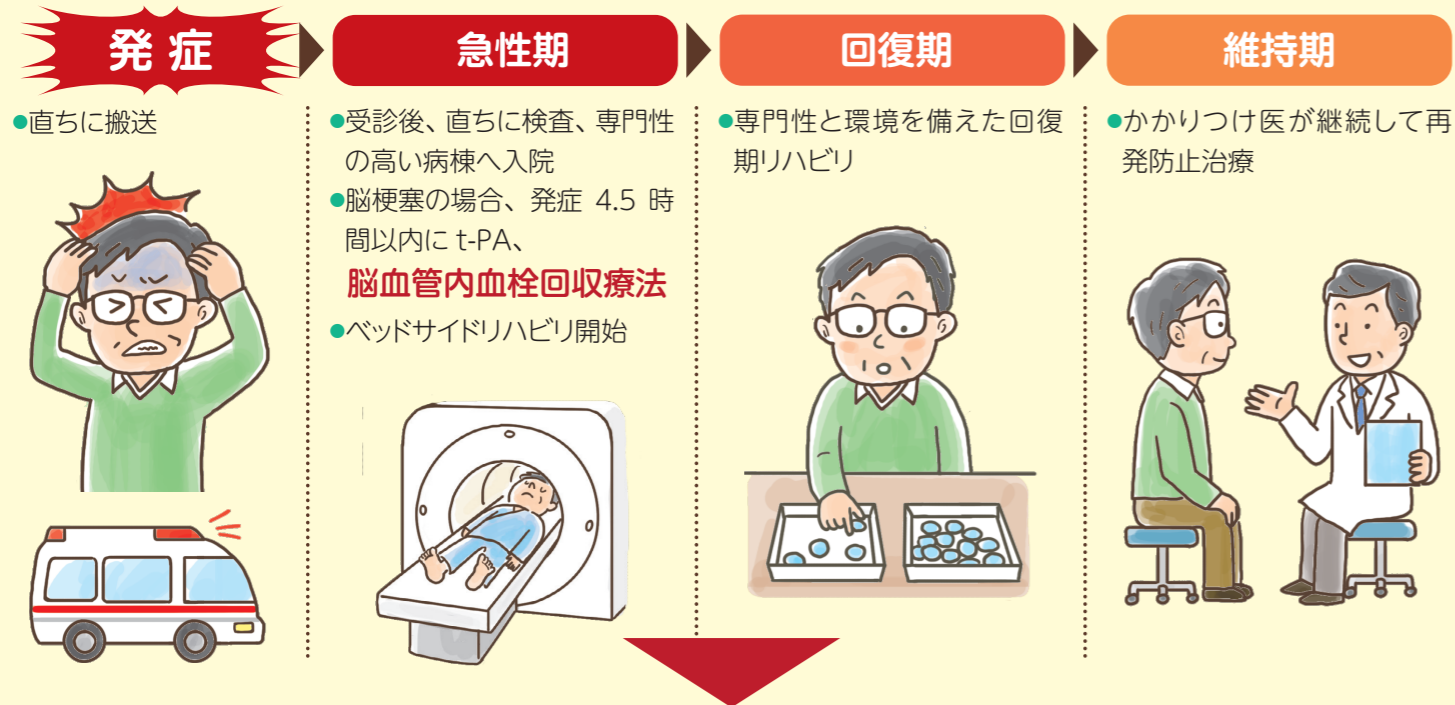


どんな病型でも治療開始が早ければ、治りも早い/
脳卒中治療の理想形

現在では、脳卒中治療の理想形は以下ようになります。

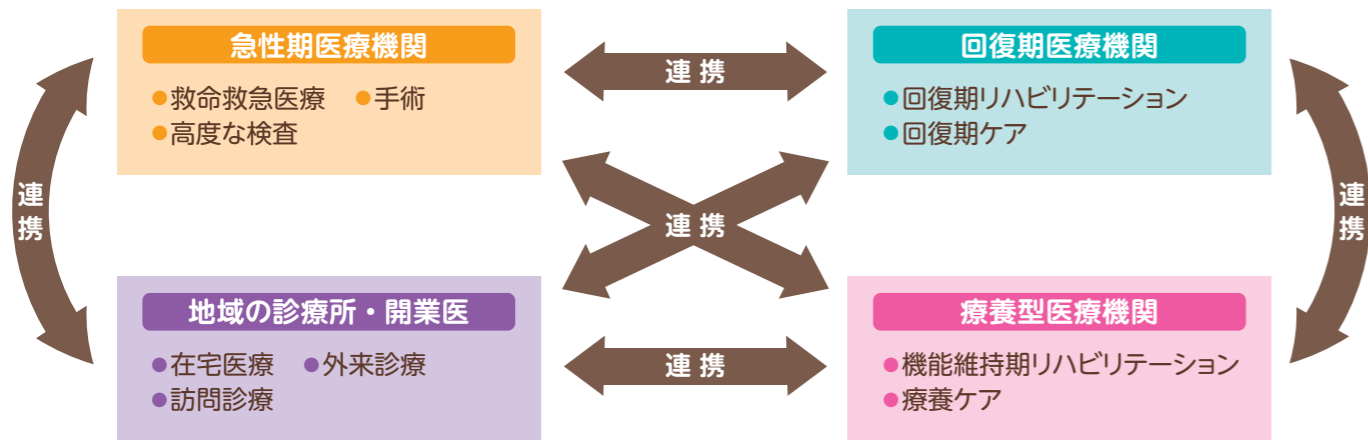


理想的な脳卒中治療のために

- 脳卒中の症状と対応の啓発
- 超急性期治療体制を全国的に整備
- 脳卒中のための搬送体制整備
- 継ぎ目のない医療体制の確保

この実現のためには、地域医療連携が大切!

この実現のためには、地域医療連携により、それぞれの医療施設が役割分担し連携する必要があります。



一般財団法人 京都府医師会

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6 TEL: 075-354-6101 (代表)
〈ホームページ〉 <http://www.kyoto.med.or.jp> 〈e-mail〉 kma26@kyoto.med.or.jp
発行 WINTER 2018

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

BeWell

医師会からの健康だより

発行/一般社団法人 京都府医師会

これだけは知っておきたい健康の知識

VOL.82

さっきまで元気だったのに...

突然起こる

脳卒中

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

BeWell

医師会からの健康だより

発行/一般社団法人 京都府医師会

これだけは知っておきたい健康の知識

VOL.82

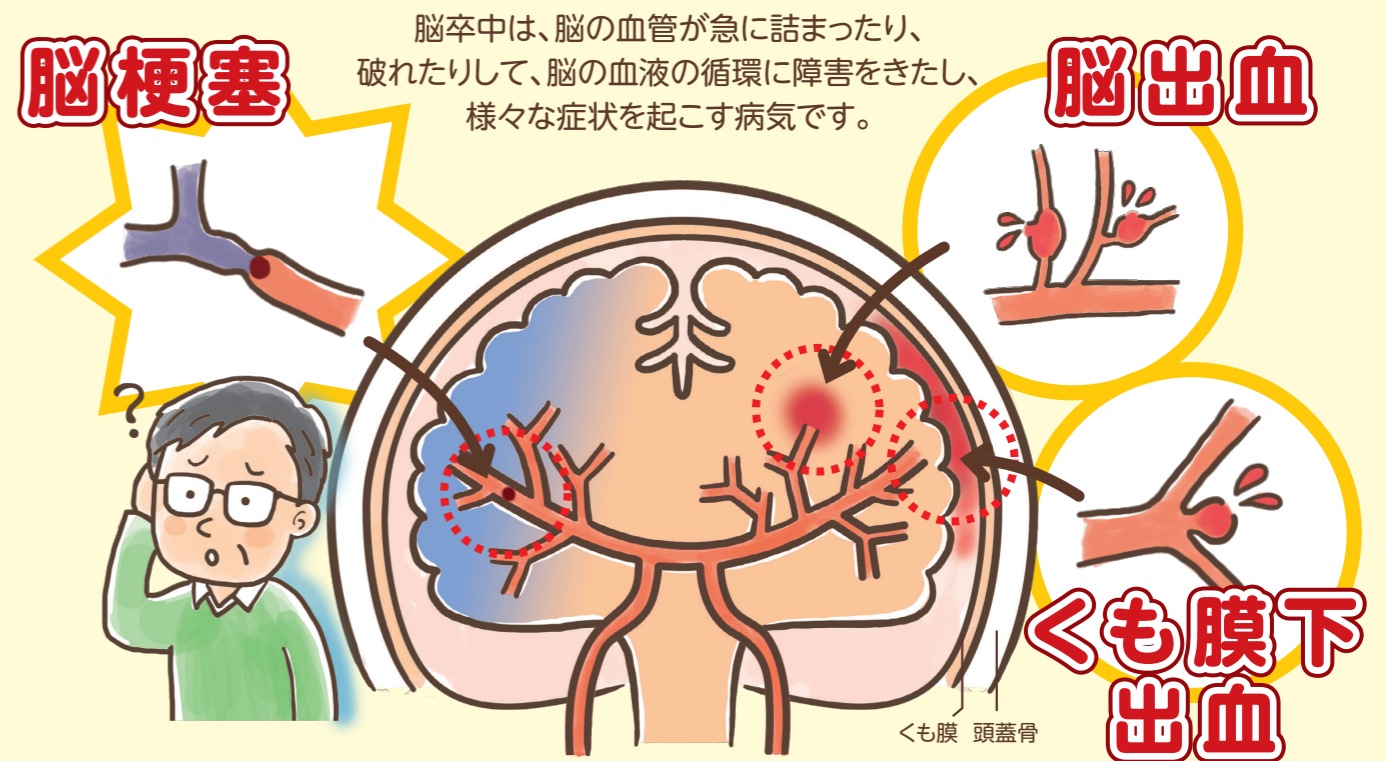
Topic 脳梗塞の新たな治療法

『Be Well Vol.68 脳卒中』では、急性期治療としてのt-PAと、脳卒中前触れ発作としての一過性脳虚血発作(TIA)^{*}が紹介されました。今回は、その後、脳卒中診療に導入された2つの大きな変化を紹介します。

1 脳梗塞の急性期治療としての脳血管内血栓回収療法

2 心原性脳塞栓症予防のための新しい抗凝固薬(DOAC)

脳卒中は、突然生じた脳の血管の血流障害です



脳卒中の制圧にはそれぞれの時期にあわせたトータル管理が必要です。



1. 徴候を感じたら すぐ病院へ

超早期の治療 脳血管内血栓回収療法

🏠 すぐに病院へ!

徴候 → 発症 → 病院

病院での治療 発症から 4.5 時間以内に...

これまでは t-PA 静脈注射

NEW 脳血管内血栓回収

脳梗塞の徴候があれば、すぐに病院に来ていただき、超早期の治療として脳梗塞発症 4.5 時間以内に **t-PA 静脈注射** を行うことを紹介して来ました。

しかし、t-PA 血栓溶解療法にも限界があり、脳の太い血管が詰まった場合や、重症の患者さんには、大きな効果が期待できないことが明らかになってきました。

そこで導入されたのが、脳梗塞に対する血管内治療です。超急性期脳梗塞治療として、経皮的に閉塞した脳血管内にカテーテルを挿入し、詰まった血栓を回収する方法です。

超早期治療の症例

●t-PA 静脈注射

- 61 歳/男性
 - 意識障害、右片麻痺、失語
- 発症 30 分で搬入。発症 2 時間で t-PA 施行するも、症状の改善なし。



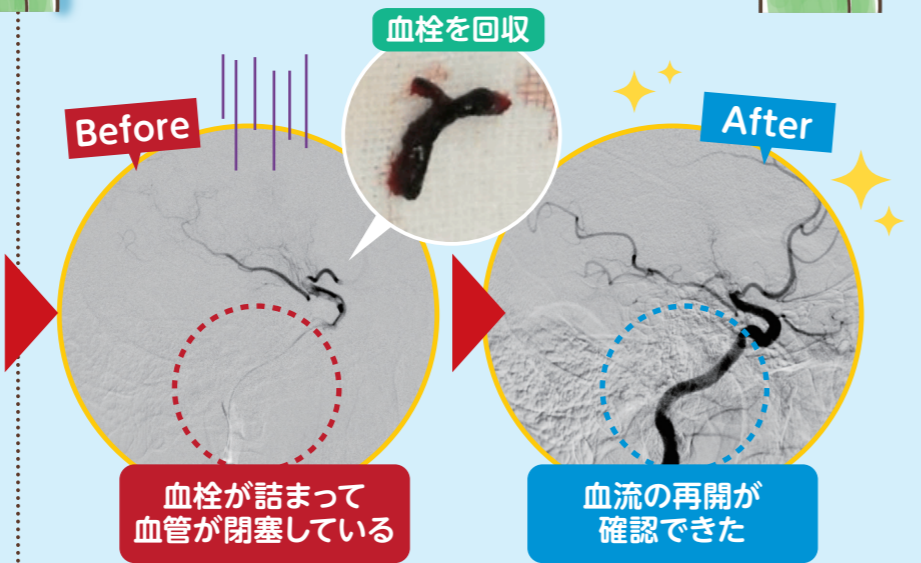
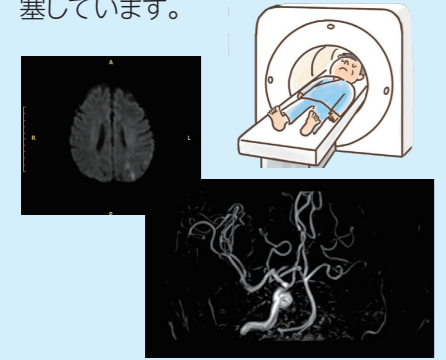
●血栓回収術

そこで、発症 3 時間 15 分、血栓回収術開始。閉塞部位まで、カテーテルを挿入し、下に示すような血栓を回収しました。その後、脳血流の再開を確認したところ、右片麻痺、失語は、ただちに改善しました。



●脳MRIでは...

左の大脳半球に脳梗塞の徴候が認められます。また、左内頸動脈が閉塞しています。



しかし、この治療は専門的な知識が必要であり、どこの施設でも手軽に出来る治療ではありません。現在、脳梗塞に対する血管内治療の普及のために救急隊と協力し、脳卒中救急体制の整備をすすめています。

医師のアドバイス

脳梗塞の徴候（左半身・右半身だけしびれるなど）があったらすぐに病院へ！超早期治療で重症化を防ぎましょう！



2. 安定したら 再発防止を

心原性脳塞栓症予防のための抗凝固薬(DOAC)

⚠️ 脳梗塞は再発しやすい病気です。

1 年以内に 10 人に 1 人が再発しています。また、再発すると重症化することも多いので、しっかりとした再発防止が必要です。脳梗塞の再発を防止するお薬は、調子がよくても、飲み続ける必要があります。

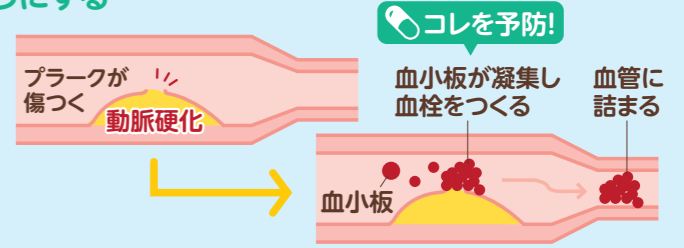
再発防止の薬

脳梗塞の再発防止の薬は、脳梗塞の病型によって異なります。

抗血小板薬

…動脈内に血栓ができないようにする

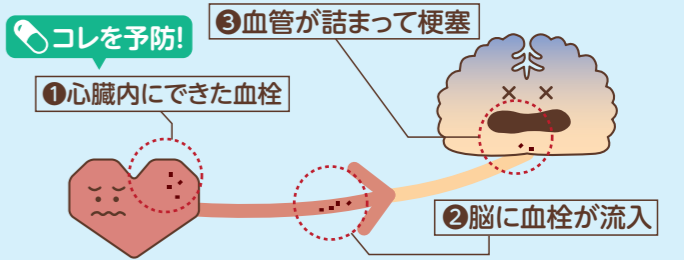
動脈硬化が主な原因になっている **アテローム血栓性脳梗塞** や **ラクナ梗塞** の再発防止には **抗血小板薬** を使います。動脈硬化で血管の内側が傷ついたとき、血小板が集まってきて血小板血栓をつくりますが、抗血小板薬は、血小板血栓形成を抑え、脳梗塞を予防します。



抗凝固薬

…心臓や静脈内に血栓ができないようにする

心原性脳塞栓症 は、心臓でできた血栓がはがれて血流に乗り脳まで運ばれ、脳の太い血管が詰まる脳梗塞ですが、心臓や静脈でできる血栓は、主に **フィブリン** という物質で形成され、**フィブリン血栓** とよばれます。**抗凝固薬** は、心臓の中の **フィブリン** 血栓形成を抑え、脳梗塞再発を予防します。



従来、抗凝固薬としては、もっぱら **ワルファリン** が用いられてきましたが、効果には個人差があり、また変動しやすいため、1 ヶ月に 1 回採血を行い、効果を調べて患者さんに適した服用量を調節する必要があります。また、ビタミン K を多く含む食物は禁止（納豆、クロレラ、青汁、モロヘイヤなど）。これらの食物は抗凝固薬の効果を弱めてしまいますし、他のお薬との飲み合わせにより効果が変動することがあります。

そのような状況の中、2011 年より、**心房細動** による脳梗塞予防に適応を持つ、**新しい抗凝固薬 (DOAC)** が導入されました。

- 従来の抗凝固薬は飲み合わせがむずかしい...
- ・ワルファリンの効果が増強する薬 抗生物質、消炎鎮痛薬、高尿酸血症治療薬、抗てんかん薬 など
 - ・ワルファリンの効果が減弱する薬 ビタミンK₂製剤 など

新しい抗凝固薬が開発された!

※心房細動は、心原性脳塞栓症の危険因子であり、きちんと治療を受ける必要があります。

病状に合わせて選択される

これらの脳梗塞予防の抗血栓薬は、患者さんの病状に合わせて選択する必要がありますが、どのお薬でも、出血が止まりにくくなる副作用があり、出血が起こるような治療や検査を行うときは、お薬を中止するように言われることがあります。他の診療科や病院の医師にお薬を中止するように言われたときには、抗血小板薬や抗凝固薬を処方した医師に相談してください。

※抜歯、白内障手術、その他の小外科手術では、お薬を中止せずに行うことができる場合もあります。

医師のアドバイス

一度かかったら再発の防止が大切です！脳梗塞の再発を防止するお薬は、調子がよくても、飲み続ける必要があります。